

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

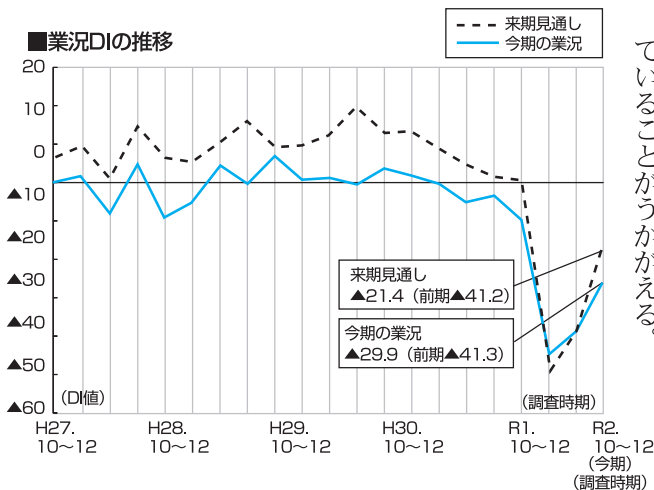
記号の見方

DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↘	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↗

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和2年10~12月
回答企業数 109社

■業況DIの推移



【来期(令和3年1~3月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲21・4
(前期時の来期見通しと比較してプ
ラス19・8ポイント)と、前期から
改善はしているものの、依然として
厳しい見通しとなっている。特に、
小売業は非常に厳しい見通しとなっ
ていることがうかがえる。

今期業況は2期連続改善。

【今期(令和2年10~12月期)の業況】

全産業の業況DI値は、▲29・9
(前期比プラス11・4ポイント)で、
産業別に見ると小売業を除く製造、
建設、卸売、サービスの4業種で前
期比プラス5・0~34・9ポイント
の改善となった。今期業況は、コロ
ナウイルスの影響が深刻化した3月
以降、最も高くなった。

■産業別DI値表

		前期 [2020.7~9] (A)	今期 [2020.10~12] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [2021.1~3]	
業況	全産業平均	▲41.3	▲29.9	11.4	▲21.4	↘
	製造業	▲66.7	▲31.8	34.9	▲9.5	→
	建設業	▲28.0	▲5.6	22.4	▲13.3	↘
	卸売業	▲27.8	▲11.1	16.7	▲5.6	→
	小売業	▲54.2	▲71.4	▲17.2	▲50.0	↘
	サービス業	▲30.0	▲25.0	5.0	▲22.2	↘
売上額	全産業平均	▲47.5	▲31.1	16.4	▲30.2	↘
	製造業	▲68.0	▲27.3	40.7	0.0	→
	建設業	▲41.7	▲27.8	13.9	▲44.4	↘
	卸売業	▲35.3	6.3	41.6	▲5.9	→
	小売業	▲70.8	▲50.0	20.8	▲59.1	↘
	サービス業	▲23.3	▲42.9	▲19.6	▲37.0	↘
資金繰り	全産業平均	▲21.3	▲13.2	8.1	▲14.0	↘
	製造業	▲40.0	▲18.2	21.8	0.0	→
	建設業	▲15.4	▲27.8	▲12.4	▲27.8	↘
	卸売業	11.1	16.7	5.6	11.1	↗
	小売業	▲39.1	▲25.0	14.1	▲36.4	↘
	サービス業	▲16.7	▲10.7	6.0	▲14.8	↘
採算	全産業平均	▲41.5	▲26.2	15.3	▲24.5	↘
	製造業	▲44.0	▲31.8	12.2	▲22.7	↘
	建設業	▲42.3	▲17.6	24.7	▲23.5	↘
	卸売業	▲27.8	▲11.1	16.7	0.0	→
	小売業	▲54.2	▲40.9	13.3	▲45.5	↘
	サービス業	▲36.7	▲25.0	11.7	▲25.9	↘

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲31・
1(前期比プラス16・4ポイント)
となった。サービス業は後退し、そ
の他の業種は改善した。
全産業の資金繰りDI値は、▲
13・2(前期比プラス8・1ポイン
ト)となった。建設業は後退し、そ
の他の業種は改善した。
全産業の採算DI値は、▲26・2
(前期比プラス15・3ポイント)と
なり、どの業種も前期と比べ改善し
た。

ただしコロナウイルスの影響で依然として厳しい見通し。

【回答企業のコメント】

- ・コロナウイルスの影響により、イ
ベントによる集客アップが見込め
ない。営業対策として、ネット販
売を強化中。(小売)
- ・オンラインによる新しい業務も増
えているので、それに対応する業
務を増やしていきたい。(サービ
ス)
- ・公共工事の発注が低下していくこ
とが予想されるため、民間需要を
いかに得られるかが重要になる。
(建設)
- ・家庭内消費が増加傾向であり、販
売単価の動向に注意していく。
(製造)